

事業名:	コロナ禍の社会的孤立を防ぐ！
資金分配団体:	公益社団法人 ユニバーサル志縁センター
実行団体名:	特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネット
実施時期:	2021年6月～2022年2月
事業対象地域:	大分県
事業対象者:	社会的養護環境を退所した方々 コロナ禍による困窮を抱える若者

進捗報告書（実行団体）

Version 1.0

2021年11月29日

[こちらの記載例](#)を参考に作成ください。

また、事業終了時の評価に関する[完了報告書のフォーマット\(暫定\)](#)は[こちら](#)です

I. 事業概要

事業概要
コロナ禍の状況において、ケアリーバーや困難を抱える若者等に対して、「安心安全な次の準備」が行えるように相談支援を入口とした住居支援、就労支援を並行して行う。相談支援については当法人事業で実施しているルートに加え、困りを抱えた方々が声を出しやすいように、退所後の当事者グループにも協力をいただく。また就労支援については企業や事業所側に意見交換・研修・啓発を行い、新しい雇用のあり方についても検討したい。住居支援については緊急的に入居できるシェルターを準備する。

II. 進捗報告の概要

総括
<p>事業全体としては以下のような状況にある。</p> <p>1) 相談支援 当初の目的数は想定以上の状況にある。新しい相談ルート（ケアリーバー入口）がコロナ禍で思うように活動できなかったものの、緊急事態終了後の相談が増加している。</p> <p>2) シェルター利用 住居に関する相談が事業開始当初頻繁にあったが、入居のタイミング（緊急的なニーズ）が重なる等で居住支援法人にも動いていただき、現在は利用なしの状況にある。</p> <p>3) 就労支援（見学・体験および企業への啓発） コロナ禍の中、当初の想定より大きく伸びている。特に印象的なのは中小企業同友会や商工会議所等との協議から「話を聞きたい」と言ってくれる企業が増えたことは企業との連携を軸とした若者支援の可能性を感じている。また、「働くことを学ぶ」ための勉強会は参加者は現時点で74名（のべ）であり、そのうち見学会や体験につながった若者が53名（71%）であるということは想定以上に「学び」の必要性や効果を感じている。</p> <p>4) その他 上記3)にあるように働く場所と連携した若者支援の可能性を感じていることから、当事業のまとめとして当初計画はなかったが、事業予算内で「働考」（働くを考える）イベントを2月に企画させていただきたいと考えている。</p>

Ⅲ.活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
<p>①若者が当事業の相談につながる</p> <p>②危機的な状況にある若者が緊急一時的な住居を利用することができる</p> <p>③若者が就労について主体的な目標をもち、その実現に向けた取り組みを始めることができる</p> <p>④地域企業が新しい雇用のあり方を導入する</p>	<p>①想定を上回る相談（目標 100 現在 132）</p> <p>②シェルター利用はニーズのタイミング等が重なり想定よりも少ない。事業実施期間の 8 カ月に月 1 名程度を予想したが最初の入居者が 3 か月利用したことも影響する。しかし、月別に見れば 11 月以外は入居があった。（目標 8 名 現在 3 名）</p> <p>③就労支援を相談からつなげ、説明会—学習会—見学—体験としたことは一定の効果がみられる。アルバイト契約 3 名、雇用の決定が 2 名出たことは大きな成果である。企業側の柔軟な対応もありがたかった。（就労体験実施数目標 50 回 現在 53 回）</p> <p>④新しい雇用のあり方（シゴトを切り出す等）までには至っていないが、若者の状況に合わせて「単なる労働力」ではなく求職準備段階にある（求職者にまでは至っていない）若者の存在について意見交換ができています。具体的には短時間労働、決まったプログラムの労働（皿洗いのみ等）などが企業側から提案され始めている。</p>

活動	進捗状況	概要
<p>1) オンライン相談準備 担当チームの結成 シェルターの設置</p> <p>2) 相談支援機関、児童養護施設、里親ネットワーク等への説明会 オンライン相談の開始</p> <p>3) 当事者との学習会</p> <p>4) 企業説明会、意見交換会、研修会①～③</p> <p>5) 相談支援、就労体験、インターンシップ等（シェルター利用は随時）</p>	<p>ほぼ計画通り</p>	<p>2) の項について以外はほぼ計画通り実施できている</p> <p>2) コロナ禍により児童養護施設、里親会等については施設や里親宅をケアリーダーと訪問して、インケア中の児童にもこういった窓口（助成事業終了後も考えて）を知らせることを企画していたが、現在未実施。しかし、クチコミやアフターケアセンターの活動の中で周知はされている</p>

Ⅳ.事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>「働く」や「暮らす」につながる相談援助の見せ方（窓口や支援内容等）は一定の効果があることが見えてきた。特に「暮らし」のサポートは生活の基盤をつくるうえで非常に大切で、衣食住の基本が安定することの重要性を痛感している。社会的養護等のカバーする「20歳」という年齢（措置延長一部22歳）を超えたところにある若者支援の空洞化は喫緊の課題である。</p> <p>そのためにも行政や制度との連携のみならず、地域にある資源（企業や働く現場、サポート団体等）との連携体制をどのように構築するか。本事業ではそこに挑戦しているが、数字的には上がってきても、やはり現場では「連携と負担はすごく近くにある」という印象。相談に訪れる方々としっかりとした相談援助ではなく、便利なメニューや窓口に手続き的につなぐ相談支援現場の課題、昭和的な（ずいぶん減ってきましたが…）「労働力の補充」が染みつく企業サイド、それぞれの負担を上回る「メリット」をどのようにシェアできるかが悩ましい。</p>

V. インプット

		2021 年度	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥4,268,440	¥2,635,210	61.7%
	管理的経費	¥480,000	¥240,000	50%
合計		¥4,748,440	¥2,875,210	59.9%

補足説明	(上記は 11 月 2 日現在：12 月 3 日に通帳資金移動) 直接事業費のうち ・ 諸謝金 (事業費) 530,000 ・ 広告宣伝費 160,000 が未払い金となっている 管理的経費としての会計士への支払いは未締め翌 21 日支払なので 4 か月分の支払いになっている。
------	---

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍による就労体験の減少 仕方ないことではあるが、見学や体験の受け入れには非常にハードルが高い。特に飲食店においては顕著である。現状は少しずつ検討に向けて動いているが、店側に「話は聞くが余裕がない」とされる店舗も多い。落ち着きを願う他ない状況である。・ 働くメニュー (分野) の創出 当初短時間でのアルバイトづくりに「新聞配達」「倉庫整理」などのメニューを検討したが、即戦力を求められる、また単調な業務ではあるが体力が必要ななどのハードルからプログラム化できない。利用側も少ない賃金ではなかなかマッチングの困難性を感じる。・ シェルター (暮らしの場所) の確保 当初 1 カ月程度の利用で次が見つけられるのではと考えたが、スタートの女性が被虐待の過去等から、1 か月では到底次につなぐことは難しかった。「あてはまる制度がない」または「状況的にはあてはまって実際の受け入れが難しい」などのことが多くある。また、暮らしの保障には費用的な課題もある。消耗品や食材の提供、季節による品物の入れ替え、メンテナンス、大家さんの理解等、制度外での運用・運営には課題が大きいことも見えてきた。(しかし効果は大きい!)

VII. その他

自由記述

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	無	
広報制作物等	有	・働考イベント（2月予定）
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス 実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	